

第5学年 国語科学習指導案

令和6年6月24日(月) 5校時
2組 計 23名
指導者 加藤 美土里

1 単元名・教材名 要旨を読もう 「見立てる」(野口廣)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

本単元は、5年生になって初めての説明的な文章を読む単元である。文章全体の構成をとらえて、要旨を把握することが主なねらいである。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、4年時の説明的な文章において、双括型の文章構成を学び、考えとそれを支える事例の関係について叙述を基に捉える学習をしてきた。しかし、事前の調査では、言い換えの表現を見つけ出すことと、文章構成を捉えることに課題が見られる。

(3) 教材の特性

教科書では、教材「見立てる」(野口廣)は、2教材構成の単元の練習教材として位置づけられている。「見立てる」の次の特性を生かして、ねらいに迫りたい。

- 本教材は、双括型の文章構成であるため、冒頭部と終結部を生かして、要旨をまとめることができる。
- 「見立てる」ことが、あやとりを例に説明されており、児童にとって理解しやすい教材となっている。さらに、けん玉や鉄棒といった身の回りのものと関連付けて、理解を深めることができる。

(4) 指導に当たって

本校の研究内容を具体化するために次の点に留意して指導を行う。

① 学習者主体の授業

- ・ 学習形態を児童に選択させる。具体的には、従来の固定的なグループ学習ではなく、一人で考える、ペアで考える、グループで考えるなどの学習形態を児童自身に選択させる。

② 対話活動の充実

- ・ 第1時では、段落を並べる場面に対話を設定し、文章構成を捉えるための言葉や文章構成の型を捉えさせる。
- ・ 第2時では、要旨を捉える場面に対話を設定し、事例と要旨を関連付ける思考活動を通して、要旨を捉えさせていく。
- ・ 教師は、根拠となる言葉への着目を促したり、児童同士の考えを関連付けたりして、対話を活性化させる助言を行う。

③ 学びを振り返る場の設定

- ・ 学習の振り返りは、学習したこと、できたこと・分かったこと、次への問いの観点で書かせる。

3 目 標

- (1) 文と文の接続の関係や文章の構成の型について理解することができる。【知識・技能】
- (2) 文章全体の構成を捉えて、筆者の考えとそれを支える事例を結び付けながら要旨をまとめることができる。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 問題意識をもち、友達と対話しながら学習に取り組むとともに、自らの学習を振り返って次に生かそうとすることができる。【学びに向かう力・人間性】

4 指導計画（全2時間）

小題材	主な学習活動	指導上の留意点(○)と評価の観点(●)
1	「見立てる」の全体構成を捉える。	
	1 「見立てる」の文章の構成をつかむ。 ① 説明文の読み方を知り，全体構成を捉えることについての問題意識を持つ。 ② バラバラになった段落を並び替えることによって，段落相互の関係をつかむ。 2 双括型の文章構成から，筆者の考えの中心と事例が書いてある段落を捉える。	1 筆者の考えや事例を読むためには，全体構成を捉えることが大切です。 2 段落を正しく並べ替えましょう。 3 筆者の考えの中心が書いてある段落はどこでしょう。事例はどこに書いてあるでしょう。
2	筆者の考えと事例を結び付けて，要旨を捉える。	
	1 冒頭部と終結部を比べて読み，筆者の考えの中心を読む。 2 「中」で，筆者が挙げている事例と筆者の考えをつなげて読む。 3 要旨をまとめて「はがき新聞」に書く。 4 説明文の読み方をまとめ，次の学習に生かしたいことを「はがき新聞」に書く。 ① 筆者の考えの中心を読む。 ③ 筆者の考えと事例をつなげて読む。	1 ①と⑥の段落を比べて，同じようなことを述べているところを見つけましょう。 2 ①と⑥の段落で筆者が述べていることは，どの事例で説明されていますか。 3 要旨の型（「筆者は，○○について，○○の例を挙げながら，○○と述べている。」）に合わせて要旨をまとめなさい。 4 説明文の読み方の中で，一番役に立ったことをはがき新聞に書きましょう。

5 本 時（1／2）

(1) 目 標

段落の関係や事例，理由を表す言葉などに着目し，段落の並び方を考える活動を通して，要旨を捉えるための説明文の文構成について理解することができる。

(2) 指導に当たって

バラバラになった段落を並び替える活動を設定し，段落の関係や事例，理由を表す言葉などに着目して，文の構成を捉えることができるようにする。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教 師 の 具 体 的 な 働 き かけ（○）
つかむ・見通す	1 「筆者」「要旨」「事例」「構成」の用語の意味を知り，説明文の読み方を確かめる。 2 バラバラになった段落をもとに，文章構成に問題意識をもち，めあてをつかむ。 - バラバラだとどこに筆者の考えが書いてあるか分からないよ。 - 並び替えれば，文の構成が分かるよ。 文章の構成は，どのようになっているのだろうか。	(分) 8	○ 説明文の構成を学習する必要感をもつことができるようにするために，バラバラになった段落を提示し，問題意識をもつことができるようにする。
	3 見通しをもつ - 並び替えて構成が分かれば，筆者の考えがどこに書いてあるか分かるね。 4 バラバラになった段落の並び方について話し合う。 (1) 手掛かりになる言葉を考える。 【着目する言葉】 ・段落のはじめの言葉 ・文末表現 ・繰り返し，言い換え (2) ロイロノートに配付された段落カードを個人またはグループで並び替え，その理由を話し合う。 「～を例に考えてみよう」と書いてあるから，この段落は何かの事例が書いてあるね。（第2段落） - この段落（第6段落）は，最初の段落と同じようなことが書かれているから，筆者の考えの中心になるのかな。 (3) 全体で検討し，着目する言葉をまとめる。	32	対話の目的 段落の関係や事例を表す言葉に着目させる。 ○ 段落の関係を捉えることができるように，対話を設定する。その際，机間指導しながら，並び替えた理由を問うたり，子供同士の考えをつなげたりする。
調べる・深める	5 筆者の考えはどこに書かれているのかについて話し合う。 同じことが繰り返されているから，筆者の考えは，はじめとおわりに書かれているのではないかな。		○ 文の構成を捉えることができるようにするために，繰り返されている表現や文末表現に着目させながら，「筆者の考えはどこに書かれているのか。」を問う。
まとめる・ふりかえる	6 学習のまとめを行う。 「はじめ」と「おわり」に筆者の考えが書いてある。「中」には，事例が書かれている。	5	振り返りの視点 「今日学習したこと」 「できたこと，分かったこと」 「次に向けて」
	7 本時の学習を振り返るとともに，既習教材で構成の型を捉える演習をする。		

(4) 評 価

段落の関係や事例，理由を表す言葉などに着目し，段落の並び方を考える活動を通して，要旨を捉えるための説明文の文構成について理解することができた。

